

リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格に必要である」37.5%、「関心のある内容である」25.0%、「単位数を確保する」12.5%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目は、母性看護学の知識をベースに助産の専門的知識がより必要となるため、スムーズに講義に入れるように事前に予習を提示し、講義に臨むよう促した。今年度は、全て対面で講義が行われた。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、主体的に個人やグループで考える機会を取り入れるなどの工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科診療ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準にそって、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。</p> <p>③実習において、必須である分娩介助や助産診断に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、デモストや事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①最終的な成績の平均値は76.5点(±6.7)でありばらつきは大きくなかった。5名の学生が理想的レベル(概ね80点以上)に達しており、7名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識・理解に関しては70%、思考・判断に関しては69%の達成度であった。小テストを取り入れるなど、知識理解が定着するように工夫した。理解が不十分な学生にはフォローを行うなど、次年度に向けて検討したい。また、技能表現に関しては86%の達成度であった。DVDを視聴、またデモンストレーションを見学しながら、分娩進行の情報を捉え、アセスメントし必要なケアを考え実施することを繰り返し行った。内容的に専門的知識と思考判断を統合していく難しさもあったが、学生が意見交換を行うことで共通の理解を得られたと考える。幅広い思考判断・技能表現の修得には、経験と時間を要するため、実習などを通してより深めて行くことを期待する。</p> <p>②学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解、思考判断、技能表現の観点での自己評価の平均値は4.1～4.4点、中央値は4.0～4.5点であった。学生自身は分娩期という専門分野において、自分なりの目標を達成できている(4.3点)と考える。態度においてはすべての学生が真剣に取り組んでいた。今後は、学生自身が自分の知識理解や思考判断をしっかりと身につけ、自信を持って、演習に取り組めるよう細やかなサポートを行っていく必要がある。</p> <p>全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたのではないと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性  
本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた講義は必要である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.1～4.6点（10項目すべてにおいて4.1以上）であり、また一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性  
受講動機は、「必須科目である」が100%、「資格に必要である」37.5%、「関心のある内容である」25.0%、「単位数を確保する」12.5%でほぼ全員がはじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。

③まとめ  
以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値3.9～4.4点、中央値4.0～5.0点の評価を得ることができた。  
以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.1～4.6点、中央値4.0～5.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、学生の思考判断や技能表現が向上していけるように課題を含め、実習へ結びつけることができるように講義・演習の内容等の工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学IV(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は他の助産診断・ケア学同様、臨地実習を前に短期間で集中して開講される。そのため、看護基礎教育（特に母性看護学）における知識や技術の見直しが必要であることから開講前に母性看護の知識や技術の復習として新生児期の身体面や発達発育面について講義の中で、知識の振り返りも行いながらすすめた。講義内容については、褥婦や新生児をイメージしたうえで母子一体の看護の根拠や方法を理解することを意図し、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を取り入れた。さらに、個々に新生児の特徴的な生理機能についてまとめ、それぞれがまとめた内容を発表し、意見交換を行うことで知識や思考が深まるよう工夫した。なお、病態生理や疾患、看護については、より専門性の高い授業を提供することを意図し、学内の小児領域教員や外部講師として小児科医師やNICU看護師に依頼した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80点であり、全員が理想的レベルに達した。</p> <p>目標別にみると、知識理解77%、思考判断82%、関心84%、態度80%、技能表現88%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>学生アンケートから、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」「必要となる技術を身に着けることができた」など、目標達成や的確な判断力を身につけたと実感できており、予習復習の時間も半数以上が確保できていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。

学生アンケートから、講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題や判断する「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短時間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めた。また、一方的な講義にならないよう、自己の学びをアウトプットして深められるためのグループワークや全体討論を取り入れた。

学生のアンケートからも、目標達成できたという回答がみられ、効果的に内容であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生全員が目標に達することができていた。短時間で集中的に行われる講義であり、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」40%、「関心のある内容である」20%、「単位数を確保する」10%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目は、助産の基礎的知識に加え、周産期のハイリスクに関連する領域であり専門的知識がより必要となる。今年度は、すべて対面型で講義が行われた。講義前に予習ができるように、講義資料の事前配布を行っていった。また、臨床の現場で活躍されている非常勤講師にオムニバスで講義をしてもらうことで、臨床での実践がイメージできるよう講義を組み立てている。技術演習（医師が担当）では、全学生が会陰縫合の技術を経験でき、指導が受けられるように配慮している。また、産婦人科診療ガイドライン、ハンドブックを活用し、ガイドラインに沿った学修ができるように配慮した。</p> <p>③知識理解や思考判断が技能表現である助産ケアの実施に結びつくように、シュミレーション演習等を行っていった。また、ハイリスク実習で経験するであろう疾患を課題として提示し、演習をおこなった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は78.8点（±6.2）であり、ばらつきは大きくない。7名の学生が、理想的レベル（概ね80点以上）に達しており、8名の学生が、標準レベルに達していた。「周産期のハイリスク」は、疾患についての講義がほとんどである。正常からの逸脱について知識理解を通し、思考判断について説明ができることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）」と関連付けて学習することが必要である。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解、思考判断、技能表現の観点での自己評価について、平均値は4.0～4.3点。中央値は4.0～4.5点であった。正常逸脱に関する学修における理解するためには、予習・復習が必要であると考え。全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性  
本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.0～4.3点であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性  
受講動機は、と「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」40%、「関心のある内容である」20%、「単位数を確保する」10%とほぼ全員がはじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。

③まとめ  
以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値3.9～4.2点。中央値4.0～5.0点の評価を得ることができた。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。本年度より新カリキュラムが始まり、厚生労働省の指定規則の中でも、周産期のハイリスク分野に対する学習の充実を図るように明記されている。そのためより一層、学生の学びを援助していきたい。また、正常領域の科目の授業も並行しているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は助産の実践領域の専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.0～4.4点、中央値4.0～5.0点、また成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、疾患や治療など正常からの逸脱について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量を確保することは常に必要である。今後、学生が学習時間の確保ができるように他教科と調整を図るとともに、正常領域と関連付けて学習していけるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産師として身につけておかなければならない健康教育の技術を学ぶ。健康教育を実施するにあたり周産期における母児の生理機能だけではなく、健康逸脱予防についての知識や各ライフステージにある対象の特徴をふまえたコミュニケーション能力も必要とされる。そのため、助産診断・ケア学などの関連する講義で得た知識を活用できるよう開講時期を工夫した。特に、助産学基礎実習に必要な妊娠期・産褥期における母児の健康教育に関しては、授業で得た成果を実習でいかすために前期に計画した。また、できるだけ実践経験をえられるよう、ロールプレイや高校における健康教育実践の機会を計画した。</p> <p>学生指導においては、担当教員を決め、少人数を受け持ち、学生個々のペースを配慮した指導を心がけた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であった。全員が理想的レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解67%、思考判断89%、興味関心88%、態度91%、技能表現76%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>学生アンケートから、到達度自己評価に関してはほぼ全ての学生が中央値に近い評価であり、目標を達成できたという自己評価が見られた。</p> <p>他の科目の課題が重なっていたものの、自己の課題や本科目で得られた知識を臨床などにおいて、対象者や高校生に提供するという明確な目標があったことが学習のモチベーションを上げる原動力となり、目標達成につながったと考える。さらに、担当教員との個別的な指導の機会を設けていたことや授業の中で他の学生とのディスカッションの時間を持つことができたこと。今年度は、コロナ禍であったが昨年に比べ臨床で、保健教育を行う機会が得られたことも要因であったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員が講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題や判断する「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生がある程度の関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、科目間の関連性や講義の順序を考慮して講義を進めてきた。学生のアンケートからも、ほぼ全員の学生が予習や復習を行っており、効果的な内容であったと考える。また、到達度自己評価も全員ほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、少人数を教員が担当し、個々のペースを配慮した指導を心がけたことも要因であると考えられる。本科目はコロナ禍であったものの、対面授業で実施することができた。技術演習やディスカッションなどを実践的に行えたことで、意欲が高まっていったのではないかと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。今後も、学生のペースを配慮した指導を心がけ、学生全員が知識や思考判断を伴った健康教育技術を修得できるよう取り組んでいきたい。なお、次年度の学生は臨床経験が少ない可能性が高いことから、より思考・判断能力を活用した技術演習を実施できるよう工夫をしていきたい。



リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ウィメンズヘルスケア	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、女性のライフサイクル各期における健康問題を中心に、その支援について学び、女性の支援者としての助産師の役割を学ぶことを目的としている。全ての女性のライフサイクルの中で支援者となる助産師の役割を考える機会となることを意図し、専門科目ではあるが学期の初めに講義を組んだ。また、事前に課題を提示し、基本的な知識をふまえて講義に臨むよう意図した。その後、内容ごとに小テストを実施し知識の定着を図った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は全員が「必須科目である」ことをあげていたが、数名は「関心のある内容」であることをあげていた。また、予習復習に時間をとり、学習にとりこんでいた。</p> <p>最終的な成績の平均値は81点であり、全員が標準レベルに達していた。</p> <p>DP別にみると、知識理解は76%、思考判断は90%、関心意欲は80%、態度は80%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であり、健やかな女性のライフサイクル支援を主とする科目の一つである。ライフサイクル各期の女性に関する知識理解はもちろん思考判断をふまえたうえで、関心を持って自らの意見をまとめ他者に発信し、より具体的な助産師の役割を見出していくためには必須である。講義には意欲的に取り組んでおり目標到達もできていることから、内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

周産期を学ぶうえで、ライフサイクルにおける女性の特徴や看護を理解することは重要であることから講義の時期や内容は適切であったと考える。次年度も、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げるためにも、調べ学習や意見交換などの機会をもうけ、アウトプットできる機会を増やすことで、お互いの学びを深められるような工夫していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生アンケートから、ほぼ全員が目標を達成できたと回答している。短時間で集中的に行われる講義であるが、今後も、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げられるような講義内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;</p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は助産師として、地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最新の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、84.5 (83.8) 点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100 (100) %であり、内、理想的レベルに達した学生は、87.5 (87.5) %であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては80.3 (80.7) %、意欲関心に関しては86.3 (86.0) %、態度に関して100 (100) %であった。成績の平均値は、前年度より上がっているが、対象の学生が違うため効果を測ることができない。</p> <p>目標別にみると助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、今年度も学生の理解は得られていると考えられる。さらに全員の学生が十分理解し、授業にも関心をもって参加する状況に改善していきたい。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.6～3.9 (4.2～4.7) となっており、昨年度と同様の展開を実施したが、自己評価得点は低い結果となっている。成績は、昨年より上回っているが自己評価が低い点について、課題として取り組む必要がある。また、今年度はアンケート回答率が50%となっているため、アンケート実施時期についても検討が必要と考える。</p> <p>* ( ) は前年度値</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては8割、意欲関心に関しては8割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考えている。オムニバスの科目であるが、講師の専門性を生かした授業展開となるよう授業内容の精査に努めたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価においては、「説明は理解しやすいものであった」、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は高評価となっており、授業展開において学生の満足度が得られている。また、他の項目においても、概ね学生の評価は得られていると判断できる。今後も学生が授業の質を高く評価できる授業運営に努めたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。

さらに、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、小人数の講義であるため受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。